

第2回阿賀野川哲学塾 2010年6月19日(土)～20日(日)開講/

縄文時代からの自然の付き合い方に学び、21世紀の社会のあり方について語りつくしてみませんか!

# 第2回阿賀野川哲学塾

新潟水俣病は6月12日で正式発表から45年を迎えます。いまだ解決しない新潟水俣病は豊かな自然の恵みを持つ阿賀野川流域で発生した公害です。

環境と人間のふれあい館(新潟水俣病資料館)では、昨年度に引き続き「三人委員会哲学塾」との協働による阿賀野川哲学塾を開講します。

今回は、映画「阿賀に生きる」(佐藤真監督・1992年作品)を題材として、先人の生き方を知り、新たな自然との共生の仕方を学んでいきます。

ぜひ、この機会にご参加ください。

## プ ロ グ ラ ム

### 【1日目：6月19日(土) 10:00開講】

10:00～12:00 映画「阿賀に生きる」上映

(まだ、映画「阿賀に生きる」を見てない方は、まずここで映画を見てください。すでに、何度か見た方は午後から参加してください。)

(昼食・休憩)

13:00～17:00 映画「阿賀に生きる」の徹底鑑賞

(随時、DVDを一時停止し、気になるシーンについて語りながら、鑑賞する。)

コーディネータ：大熊 孝 (映画「阿賀に生きる」製作委員会代表/新潟大学名誉教授)

コメンテータ：旗野秀人 (映画「阿賀に生きる」仕掛け人/本業大工)

内山 節 (立教大学教授/哲学者)

鬼頭 秀一 (東京大学教授/環境倫理学・科学技術社会論)

関 礼子 (立教大学教授/環境社会学・地域環境論)

### 【2日目：6月20日(日) 12:00閉会】

9:00～ 9:20 紙芝居「阿賀のお地藏さん」上演

9:20～12:00 21世紀の自然との共生のあり方徹底討論



※第1日目の18:00から夕食、その後、三人委員会哲学塾主催の徹底討論会を開催します。

○ 主催：新潟県立環境と人間のふれあい館—新潟水俣病資料館—

※本事業は「阿賀野川え〜とこだプロジェクト」(※阿賀野川流域地域フィールドミュージアム事業)と連携しています。

## 申 込 み 先

◎ 定員・申込期限 50名先着順。5月28日(金)までにお申し込みください。  
(参加申込者多数の場合は、定員に達し次第締め切りとさせていただきます。)

◎ 受講料 無料 (但し、夕食・宿泊をお申込みの方は自己負担となります。また、夕食及び宿泊施設は菱風荘(ふれあい館隣)の予定です。)

◎ 会場・申込先

環境と人間のふれあい館—新潟水俣病資料館—

〒950-3324 新潟市北区前新田字新々町乙364-7

Tel.025-387-1450 FAX025-387-1451

<http://www.fureaikan.net/>

E-mail: fureai@abeam.ocn.ne.jp

今回のねらいと  
コーディネータ・コメン  
テータについては  
裏面をご覧ください!

## 【第2回 AGA 哲学塾のねらい】

阿賀野川流域には12,000年前の世界最古級の土器が出土する縄文遺跡があります。このことから、阿賀野川流域住民は、自然とうまく付き合い豊かな恵みを受けながら、“無事なくらし”を12,000年間にわたって持続させてきたことが分かります。しかし、昭和に始まる阿賀野川流域のダムによる水力発電開発は川の物質循環を遮断し、その電力を使ったアセトアルデヒドの生産工程で有機水銀を垂れ流し、新潟水俣病を発生させました。いわば“無事なくらし”が近代的科学技術によって遮断されてしまったのです。この近代化の誤謬を反省し、新たな自然との共生の仕方を学ばなければ“無事なくらし”を持続することはできないように思います。第2回目の阿賀野川哲学塾では、“無事なくらし”を営む中で水俣病の被害を受けた人々が描かれている映画「阿賀に生きる」(佐藤真監督・1992年作品)を徹底的に鑑賞することから、先人の生き方を知り、新たな自然との共生の仕方を学ぼうと考えました。多くの皆様のご参加を期待します。  
(三人委員会哲学塾 大熊 孝)

## コーディネータ・コメンテータ紹介



### 大熊 孝(おおくま たかし)

新潟大学名誉教授／工学博士

NPO法人新潟水辺の会代表。専門は河川工学、土木史。自然と人間の関係がどうあればいいのかを、川を通して研究しており、川の自然環境を守るとともに、治水・利水のあり方を地域住民の立場を尊重しながら考察している。著書に、『洪水と治水の河川史』(平凡社)など

### 旗野 秀人(はたの ひでと)

映画「阿賀に生きる」仕掛け人／本業大工

家業の大工を継ぎながら、新潟水俣病未認定患者支援運動に取り組む。現在、新潟水俣病安田患者会事務局長。また、「冥土のみやげ企画」を立ち上げ、患者支援のための活動を全国的に展開。新潟水俣病を題材とした初の絵本「阿賀のお地蔵さん」を発行。阿賀のお地蔵さんを建てる。



### 内山 節(うちやま たかし)

立教大学教授／哲学者

NPO法人「森づくりフォーラム」代表理事。群馬県上野村の半村民。存在論、労働存在論、自然哲学、時間存在論を軸として、哲学の研究をすすめてきた。著書に『自然と人間の哲学』『子どもたちの時間』(以上岩波書店)『共同体の基礎理論』(農山漁村文化協会)など



### 鬼頭 秀一(きとう しゅういち)

東京大学教授／環境倫理学・科学技術社会論

東京大学大学院理学系研究科博士課程(科学史・科学基礎論)単位取得退学。現場から立ち上げる環境倫理学を形にしつつある。著書に『自然保護を問なおす—環境倫理とネットワーク』(筑摩書房)、『環境の豊かさをもとめて—理念と運動』(昭和堂)など



### 関 礼子(せき れいこ)

立教大学教授/環境社会学・地域環境論

開発と自然保護、新潟水俣病問題などに関心を持ち、フィールドに根ざした研究を行っている。著書に『新潟水俣病をめぐる制度・表象・地域』(東信堂)、『コモンズをささえるしくみ』(共著、新曜社)など



### ～三人委員会哲学塾とは～

1996年秋、共通する思想傾向をもつ、内山節、大熊孝、鬼頭秀一の三人の会として生まれ、欧米の近代思想を、欧米ローカルな思想としてみながら、地域と人間の関係を軸にして、多元的な思想を創造していこうと考えています。そして相互的な関係の世界の中で、自然、人間、社会をつかむ思想潮流をつくり出したいと、樺村掛川市長の共感を得て始められました。(詳しくは<http://3nintetugaku.net/>)

# 第2回阿賀野川哲学塾

# 参加申込書

5月28日（金）必着

申込先 環境と人間のふれあい館 行き  
 (〒950-3324 新潟市北区前新田字新々囲乙 364-7)

F A X 025-387-1451 / 電 話 025-387-1450

【参加希望者】

(ふりがな) 氏 名	性別	年齢	参加するプログラム (参加するプロに○)		19日 夕食後徹底 討論(参加の 場合は○)	宿泊等の希望 (希望するものに○)	
			19日	20日		19日夕食	19日宿泊

※夕食 2,000 円（飲み物代別）・宿泊（朝食付き）4,500 円程度を予定しています。

氏 名		TEL	FAX
住 所	〒		
e-mail			

【連絡先（代表者）】（参加の決定等を連絡させていただきます。）